

施策を支える土台作り

政策統括官付統計企画管理官付
統計専門職

辻元 亮

TSUJIMOTO Ryo

平成17年 4月 総務省採用
統計センター総務部総務課評価運用係
平成18年 1月 統計センター総務部経営企画室評価係
平成19年 9月 統計局統計調査部調査企画課総括係
平成21年 11月 統計局総務課
平成24年 2月 内閣官房行政改革推進室
平成24年 5月 統計局総務課主査
平成24年 7月 統計局統計調査部経済基本構造統計課統計専門職
平成26年 4月 統計局統計調査部経済基本構造統計課
情報解析第一係長
平成27年 4月 京都府政策企画部企画統計課主任
平成28年 4月 京都府政策企画部企画統計課副主査
平成29年 4月 現職



Question & Answer

Q. 総務省を志望した理由は？

A. 総務省は、統計行政のほか、自治行政や情報通信行政など様々な業務を行っていますので、自分に合う業務が見つかるのではないかと思います。総務省を志望しました。実際、統計部門だけでなく、他府省への出向など色々な経験をさせてもらっています。

Q. 今までで一番印象に残った仕事は？

A. 「事業所母集団データベースの整備」という新しい業務を行ったことです。新規業務を行う場合、「どういった効果を狙うのか」、「そのためにどういう取組が必要か」、「その取組は実現可能性があるのか」など想像力を働かせなければいけません。この想像力を働かせるにあたっては、これまで学んできた知識や、他業務で先輩たちが蓄積した知見が活用できます。試行錯誤しつつ、そして先輩たちに感謝しつつ、アイデアを作り上げていったのは、今思い返しても、やりがいのあった仕事と感じています。

■政府統計の舵取り役

「統計」という言葉を聞くと、難しく感じるかもしれませんが、「国民経済計算」、「完全失業率」、「消費者物価指数」は、教科書や新聞等で見たことがあると思います。これらの統計は、客観的に現状を把握する上で重要なものです。そんな統計の重要性を表すエピソードとして、吉田茂(元首相)とマッカーサー(GHQ最高司令官)との食糧支援に関する逸話があります。紙面の関係上、詳細は書けないので、興味のある方は調べてみてください。

日本は、各府省がそれぞれの施策に応じた統計を作成する分散型統計機構をとっています。この分散型統計機構においては、政府統計全体に統一性を持たせるため、司令塔が必要で、総務省政策統括官(統計基準担当)は、その司令塔を担っています。具体的には、統計に関する法律「統計法」の所管や、政府統計が社会経済情勢の変化に対応するための政府統計全体の整備計画を概ね5年毎に策定しています。

■新しい刺激を受けつつ

私はこれまで統計部門だけを経験してきたわけではありません。内閣官房に出向し法案作成に携わったり、地方公共団体への出向も経験しています。このような定期的な異動により、自分の知らない世界や知識に触れ、その度に新鮮な刺激を受けます。また、所属が変われば必要な専門知識が変わりますが、それらは日々の仕事をこなしながら自然と身につきますし、意外とこれまでの経験、一見関係のなさそうな知識が他の業務を行う際のヒントにもなっています。

統計行政は「改革」を進めているところであり、またEBPM(Evidence-Based Policy Making)の重要性が指摘されるなど、エビデンスである統計の役割は益々大きくなってきています。このような転換期こそ、刺激的で、やりがいのある仕事ができます。



Private Life

平日は職場から外出することが少ないので、休日は遠出し、その街の雰囲気を感じたり、ご当地グルメを味わったりしています。先日は、「袋田の滝」が凍結しているというニュースを見て、思い立って「袋田の滝」を見に行きました。

